

## パシナ型機関車はここにあった

(中国研究所所員) 白鳥 富美子

4, 5年前, 中国東北部, 瀋陽の機務段で, かつての満鉄の特急「あじあ」号を索いていたパシナ型の機関車がみつかった, というニュースが日本の新聞に載った。つづいて, この機関車が修復され, これに客車を索かせて一段の区間を走らせ, 日本の元満鉄マンやSLマニアの青少年を乗せるツアーを組むことを中国側も考えている, というような話も流れてきて, 日本の中国侵略の先兵であった満鉄のシンボリック存在であった「あじあ」号でさえ, 観光誘致のためには利用するのか……と心ある人々を憂えさせた。その後, その話は立ち消えになったのか, それについて私は何もきかなかった。

今年(1986年)の6月, 私は中国東北部を旅行し, 瀋陽をも訪れた。そのおり, 外事弁公室のまわしてくれた車の運転手さんがさかんにすすめるので, 最近瀋陽郊外にできたという機関車博物館に, 最後の半日を使って行ってみることにした。

「少し遠いのですが……」と運転手さんはいう。

「どこまで行くの?」

「蘇家屯」

そこで, 私はハッと気付いた。蘇家屯と言えば瀋陽機務段のあるところ……。そして博物館はその機務段のとなりにあった。

博物館の正式の名は「瀋陽鐵路蒸気機関車陳列館」という。84年9月に開館した。アメリカ, 日本, チェコ, ソ連, ポーランド, ベルギー, 中国の7ヵ国のSL機関車13台が引込線の上に2列に並んでいる。パシナはやはりあった。1列目の先頭に, その流線形の外被は昔の色で新しく塗装さ

れている。

機務段での工龄35年という老労働者の館長さんがことのいきさつを話してくれた。

パシナ型機関車はこの機務段で2輛みつかった。1輛は破損がひどく, その部品を使って, もう1輛の足りない部品を補充し, 後者を復元した。だが, 圧力が足りなくて走らせることはできない。もっと他の国の機関車も集めたく, いまイタリアなどと交渉中である, とのこと。

満鉄の特急「あじあ」号は1934年から1943年まで, はじめ大連・長春間を, のちに大連・ハルビン間を走った。平均速度は82.5km, 最高速度110km, 当時として国際的な水準をいくこの速度は, その流線型のパシナ型機関車によるものとされている。館長さんの話によると, 開館してから, 日本の『鉄道ジャーナル』の人たちがきて, このパシナ型の写真をとった。いま, その写真はここでお土産品として売られている。各国の機関車の写真も1セットになって売られているが, パシナだけは単独で, とくに多い。

圧力が足りなくて, 走らせなかったのかどうかは知らないが, まあここに納まっているのなら, その処置妥当というべきであろう。

